

運動部活動指導者の現状と問題点

— 中学校バスケットボール部

指導者への調査をもとに—

高山 千代

The Present Conditions and Problems Facing Sports Club Advisers

— Based on a Survey of Lower Secondary School Basketball Club Advisers —

Chiyo Takayama

はじめに

学校教育の中の運動部活動における指導者の現状と問題点について、第一報として高等学校バスケットボール部指導者への調査について本学の研究報告第27号で報告し¹⁾、第二報として小学校バスケットボール指導者への調査について研究報告第28号で報告した²⁾。今回はその第三報として中学校バスケットボール部指導者への調査をもとに報告する。第二報で述べたように、新潟県は全国でも有数のバスケットボールの活動の盛んな県であり³⁾、指導者自身のバスケットボールの経験者は多いと予測される。小学校ミニバスケットボールでは全国一のチーム数を有し、中学校でも300チームの登録数があり、熱心な多くの指導者によって支えられている。平成8年度の第26回全国中学校選抜バスケットボール大会（三重県）においては、鳥屋野中学校（新潟市）対木崎中学校（豊栄市）という、史上初の県勢同士の決勝戦となり鳥屋野中学校が全国制覇したことは記憶に新しい⁴⁾。反面、バスケットボールや運動部活動の経験の少ない顧問が、その指導に携わることも多いため、現場では充実感と共に負担、困難が同居しているものと考えられる。中学部活動における指導者の現状と問題点を検討することにより、本報告が部活動指導の1資料として役立つことができれば幸いである。

方 法

1. 調査対象および調査時期

1994年11月～1995年1月に調査済みの33のサンプル¹⁾に加え、1997年5月～7月に新たに新潟県内の中学校106校に調査、69校90人から回答があり、有効資料としては88のサンプルが得られた。合計回答率68.8%

2. 調査内容

第一報¹⁾と同様の質問紙によるアンケート調査を実施した。(資料1)

結果および考察

以下1～4の分析方法は第一報¹⁾と同様

1. Q1～Q52の質問項目についての因子分析結果¹⁾により要因名をまとめた。(表1)

表1 項目群別要因名

項目群	質問項目(Q1～Q52)	要因名
指導の現状	1, 2, 6	積極性、充実感
	3, 5	不適合感
	4, 7	負担、困難感
指導の技術	9, 10	知識不足
	11, 12, 13, 14, 15	研究熱心
指導の環境	16, 17	学内の理解
	18, 19	家庭の理解
	20, 21, 22	保護者の理解
部員との関係	23, 24, 25, 27, 28	信頼感
	26, 29, 30, 31	民主性
	32, 33	配慮性
部員の状況	34, 35, 40, 41, 43, 44	意欲、まとまり
	36, 37, 38, 39, 42	不真面目さ
指導の言葉	46, 52	配慮の言葉
	47, 48, 49, 50, 51	指導の言葉

2. 指導者自身の運動部の経験年数(中学1年～大学4年まで)と、1で得た各要因間との関係(分散分析の結果の交互作用の図とFisherのPLSDによる有意水準の表は顕著なものについて、掲載する。以下の3、4についても同様とする。)

A バスケットボール部活動歴については、次のような傾向がある。

1) 指導の現状については、経験年数の多い方が積極性、充実感を感じ特に7年以上のグループでは5段階平均値で4.5を示し、負担、困難感は少ない。(図2-1、表2-1)

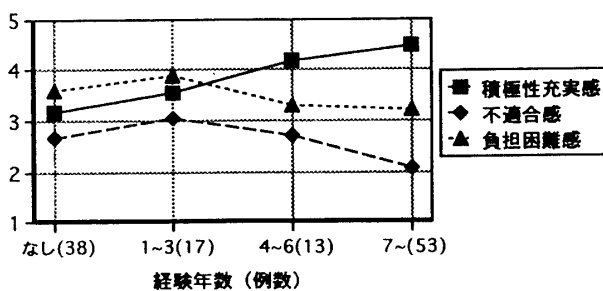


図2-1: バスケット経験と指導の現状

表2-1 バスケット経験年数間の有意差

FisherのPLSD

有意水準: 5%

	積極性充実感	不適合感	負担困難感
なし, 1~3	.1207	.1825	.2836
なし, 4~6	.0002***	.8890	.3859
なし, 7~	<.0001***	.0142*	.0779
1~3, 4~6	.0345*	.3491	.1097
1~3, 7~	<.0001***	.0013**	.0144*
4~6, 7~	.2207	.0662	.7509

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

2) 指導の技術については、経験年数の少ない方が知識不足を感じている。又、経験年数の多い方が研究熱心であり、7年以上のグループは経験年数のないグループ、1～3年グループに対して有意な差が認められた。(図2-2、表2-2)

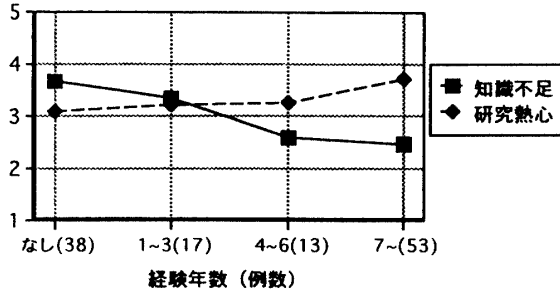


図2-2: バスケット経験と指導の技術

表2-2 バスケット経験年数間の有意差

	FisherのPLSD	
	知識不足	研究熱心
なし, 1~3	.2642	.7332
なし, 4~6	.0022**	.6083
なし, 7~	<.0001***	.0021**
1~3, 4~6	.0684	.8594
1~3, 7~	.0059**	.0440*
4~6, 7~	.7373	.1075

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

3) 指導の環境については、学内、家庭については有意な差は見られないが、保護者の理解については7年以上のグループが他のどのグループより有意に高い。

4) 部員との関係については、どのグループも高く、5段階平均値では信頼感は3.2~3.5、民主性は3.1~3.6、配慮性は4.0~4.2の範囲であるが、民主性については7年以上のグループが経験年数のないグループ (P=.0002)、1～3年グループ (P=.0367) に対して有意な差が認められた。

5) 部員の状況については、チームの意欲、まとまりでは4.0~4.2の範囲で有意な差は見られないが、不真面目さの要因では1.8~2.7の範囲であるが7年以上のグループが真面目だと感じている。(図2-3、表2-3)

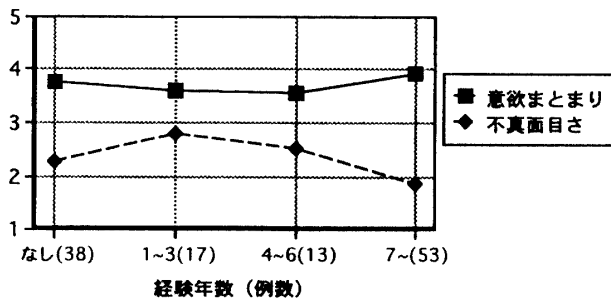


図2-3: バスケット経験と部員の状況

表2-3 バスケット経験年数間の有意差

	FisherのPLSD	
	意欲のまとまり	不真面目さ
なし, 1~3	.3492	.0057**
なし, 4~6	.2675	.2376
なし, 7~	.2290	.0062**
1~3, 4~6	.8023	.2246
1~3, 7~	.0604	<.0001***
4~6, 7~	.0537	.0022**

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

6) 指導の言葉については、配慮の言葉では3.5~3.3、指導の言葉では2.8~3.0の範囲にあり有意な差は見られない。

B 運動部活動歴 (バスケットボールと他の種目の経験年数の和) について、次のような傾向が認められた。尚、経験年数のない例数が2であり全項目で有意差は見られない。

1) 指導の現状については、経験年数の多い方が積極性、充実感を感じている。1～3年グループは不適合感を少し感じる。負担、困難感では3.2~4.0の範囲で1～3年グループが高い。(図2-4、表2-4)

2) 指導の技術については、経験年数の少ない方が知識不足を感じている。又、経験年数の多い方が研究熱心である。

3) 指導の環境については、有意な差は見られない。

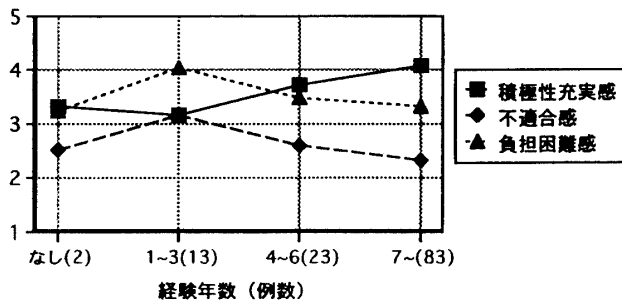


図2-4：運動部経験と指導の現状

- 4) 部員との関係については、信頼感は経験年数の多い方がやや高い、民主性、配慮性は有意な差は見られない。
- 5) 部員の状況については、チームの意欲、まとまりで7年以上のグループが他のグループよりも有意に高く、真面目である。
- 6) 指導の言葉については、有意な差は見られない。

このように、指導者自身の部活動の経験は、部活動の指導場面に影響を及ぼしている。経験年数が多い方が、より積極性、充実感を持って指導しており不適合感が少ないことが認められた。部員の状況の項目についても、経験年数が多い指導者の部では、部員の意欲、まとまりがあり真面目に取り組んでいることが認められた。他の要因については顕著な差は認められなかった。又、例数を比較してみるとバスケットボールに関しては経験年数において、なし(38)、1~3年(17)、4~6年(13)、7年以上(53)である。他の種目も含めた運動部の経験年数では、なし(2)、1~3年(13)、4~6年(23)、7年以上(83)という結果である。バスケットボールの経験者は68.6%であり、運動部の経験者98.3%と非常に多いことが解る。さらに、7年以上つまり中学、高校、大学とどの段階でも運動部に所属していた者がバスケットボールの経験者で43.8%、運動部の経験者で68.6%である。

3. 運動部顧問としての指導経験年数と、1で得た各要因間との関係を調べた。

A バスケットボール部指導歴について、次のような傾向が認められた。

- 1) 指導の現状については、20年以上のグループを除いては指導年数の多い方が積極性、充実感を感じている。指導年数の多い方が不適合感および負担、困難感は少ない。(図3-1、表3-1)

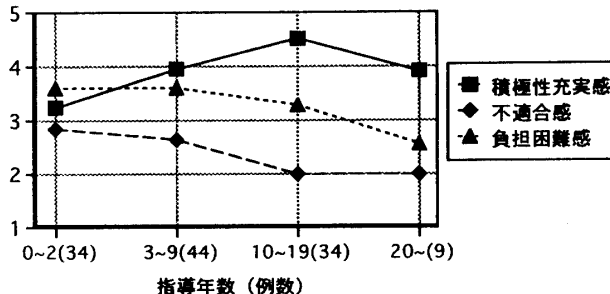


図3-1：バスケット指導歴と指導の現状

表2-4 部活動経験年数間の有意差

	FisherのPLSD		
	積極性充実感	不適合感	負担困難感
なし, 1~3	.8025	.4296	.3134
なし, 4~6	.5604	.8923	.7414
なし, 7~	.2628	.8105	.9119
1~3, 4~6	.0762	.1507	.1328
1~3, 7~	.0011**	.0107*	.0225*
4~6, 7~	.1145	.2507	.4865

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

表3-1 バスケット指導歴間の有意差

	FisherのPLSD		
	積極性充実感	不適合感	負担困難感
0~2, 3~9	.0005***	.4151	.9468
0~2, 10~19	<.0001***	.0022**	.1687
0~2, 20~	.0381*	.0410*	.0057**
3~9, 10~19	.0051**	.0133*	.1629
3~9, 20~	.9282	.1108	.0053**
10~19, 20~	.0700	.9706	.0576

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

- 2) 指導の技術については、指導年数の少ない方が知識不足を感じている。又、20年以上のグループを除いては指導年数の多い方が研究熱心であり、各々に有意差が認められる。(図3-2、表3-2)

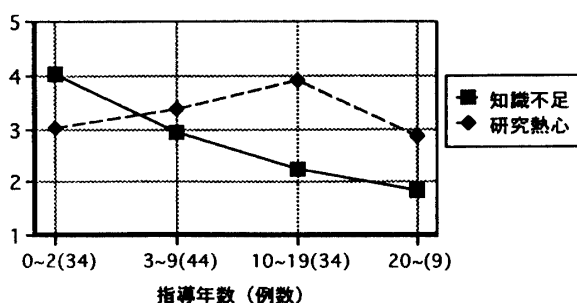


図3-2：バスケット指導歴と指導の技術

表3-2 バスケット指導歴間の有意差

FisherのPLSD		有意水準：5%	
	知識不足	研究熱心	
0~2, 3~9	<.0001***	.0442*	
0~2,10-19	<.0001***	<.0001***	
0~2,20~	<.0001***	<.6128	
3~9,10-19	.0019**	.0121*	
3~9,20~	.0021**	.0762	
10-19,20~	.2555	.0013**	

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

3) 指導の環境については、有意な差は見られない。

4) 部員との関係については指導年数の多い方が信頼感が高く、20年以上のグループを除いては指導年数の少ない方が、民主性が高く、配慮性はどのグループも4.0~4.5の範囲と高く、さらに指導年数の多い方が有意に高くなっている。(図3-3、表3-3)

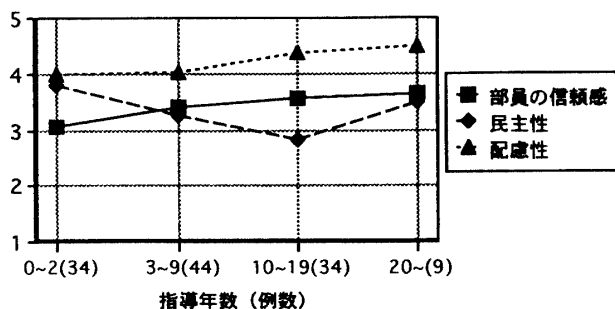


図3-3：運動部指導歴と指導の技術

表3-3 バスケット指導歴間の有意差

FisherのPLSD		有意水準：5%		
	信頼感	民主性	配慮性	
0~2, 3~9	.0134*	.0004***	.9381	
0~2,10-19	.0015**	<.0001***	.0195*	
0~2,20~	.0189*	.1873	.0393*	
3~9,10-19	.3480	.0047**	.0162*	
3~9,20~	.3853	.3641	.0390*	
10-19,20~	.7826	.0091**	.5821	

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

5) 部員の状況については、チームの意欲、まとまりで3.7~4.3と高い値を示し指導年数の多い方が、部員はより真面目に取り組んでいると感じている。(図3-4、表3-4)

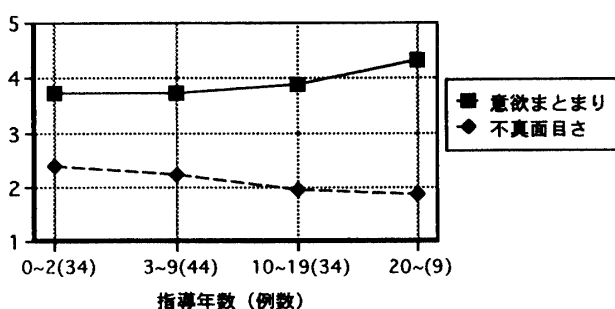


図3-4：バスケット指導歴と部員の状況

表3-4 バスケット指導歴間の有意差

FisherのPLSD		有意水準：5%	
	意欲まとまり	不真面目さ	
0~2, 3~9	.8537	.3731	
0~2,10-19	.2154	.0133*	
0~2,20~	.0144*	.0511	
3~9,10-19	.2580	.0806	
3~9,20~	.0167*	.1471	
10-19,20~	.0893	.7264	

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

6) 指導の言葉については、3年未満のグループが少ない傾向が認められる。

B 運動部指導歴（バスケットボールと他の種目の指導年数の和）について、次のような傾向が認められた。

1) 指導の現状については、20年以上のグループを除いて指導年数の多い方が積極性、充実感では高い。又、不適合感および負担、困難感は指導年数の多い方が少ない傾向が認められる。

2) 指導の技術については、3年未満と3～9年のグループが知識不足を感じている。20年以上のグループを除いて指導年数の多い方が研究熱心である。(図3-5、表3-5)

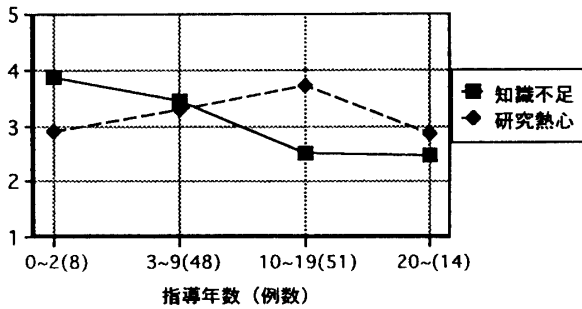


図3-5：運動部指導歴と指導の技術

表3-5 運動部指導歴間の有意差

	FisherのPLSD	
	知識不足	研究熱心
0~2, 3~9	.3336	.2580
0~2, 10~19	.0021**	.0168*
0~2, 20~	.0054**	.9413
3~9, 10~19	<.0001***	.0166*
3~9, 20~	.0043**	.1270
10~19, 20~	.8480	.0020**

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

3) 指導の環境については、家庭の理解で3年未満のグループが他より低く、他には顕著な差は見られない。

4) 部員との関係については10～19年のグループが3年未満と3～9年のグループより信頼感が高く民主性は低い。(図3-6、表3-6)

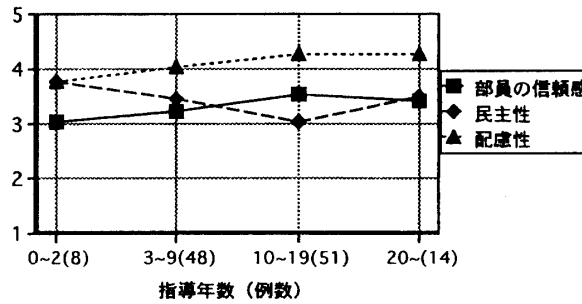


図3-6：運動部指導歴と部員との関係

表3-6 運動部指導歴間の有意差

	FisherのPLSD		
	信頼感	民主性	配慮性
0~2, 3~9	.4311	.2553	.2271
0~2, 10~19	.0354*	.0095**	.0438*
0~2, 20~	.1719	.4166	.0661
3~9, 10~19	.0129*	.0058**	.1243
3~9, 20~	.3135	.8047	.2402
10~19, 20~	.5085	.0355*	.8757

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

5) 部員の状況については、有意な差は見られない。

6) 指導の言葉については、有意な差は見られない。

C 他の種目の指導歴については、3年未満、3～9年の例数が55, 54でありこの中にバスケットボールの指導歴の長い場合が含まれるので、AとBの逆の傾向が現われた。(図3-7、表3-7)

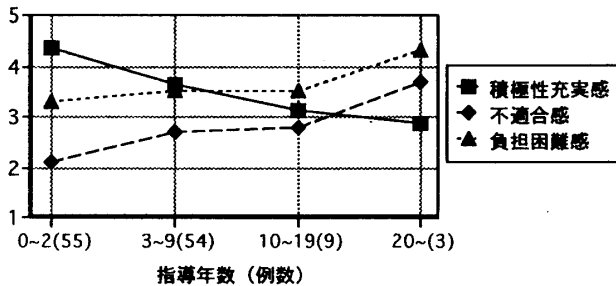


図3-7：他種目指導歴と指導の現状

表3-7 他種目の指導歴間の有意差

	FisherのPLSD		
	積極性充実感	不適合感	負担困難感
0~2, 3~9	<.0001***	.0041**	.2335
0~2, 10~19	.0002***	.0818	.5744
0~2, 20~	.0061**	.0146*	.0912
3~9, 10~19	.0951	.8464	.9406
3~9, 20~	.1514	.1281	.1910
10~19, 20~	.7075	.2107	.2285

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

例数については、バスケットボール部指導歴では20年以上のグループが9例、全指導歴でも14例となっている。このグループについては例数が少ないので単純には比較はできないが、指導年数の多い方が、意欲的な取り組み(積極性充実感、研究熱心さ)がみられ、子供たちも意欲的に

取り組んでいる（信頼感、不真面目）。

4. 指導の技術的な部分についての指導者のタイプと、1で得た各要因間との関係を調べた。

1) 指導の現状については、「解る—研究熱心」タイプは特に積極性、充実感を感じ、不適合感および負担、困難感ほかのタイプよりも少ない。「解る—研究不熱心」タイプと、「解らない—研究熱心」タイプの間には、差はない。「解らない—研究不熱心」は、積極性、充実感が少し低く、不適合感および負担、困難感を感じている。(図4-1、表4-1)

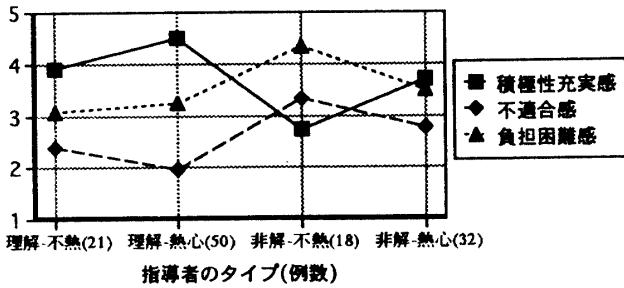


図4-1：指導者のタイプと指導の現状

表4-1 指導者の4つのタイプ間の有意差

FisherのPLSD		有意水準：5%		
		積極性充実感	不適合感	負担困難感
理解-不熱, 理解-熱心		.0041**	.1069	.4224
理解-不熱, 非解-不熱		<.0001***	.0048**	<.0001***
理解-不熱, 非解-熱心		.3879	.2038	.1103
理解-熱心, 非解-不熱		<.0001***	<.0001***	<.0001***
理解-熱心, 非解-熱心		<.0001***	.0008***	.2864
非解-不熱, 非解-熱心		<.0001***	.0578	.0035**

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

3) 指導の環境については、「解る」タイプは、学内、保護者からの理解応援があると感じている。(図4-2、表4-2)

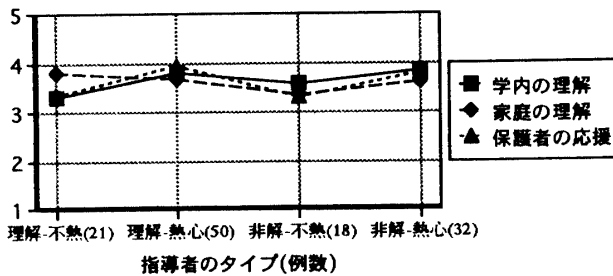


図4-2：指導者のタイプと部員との関係

表4-2 指導者の4つのタイプ間の有意差

FisherのPLSD		有意水準：5%		
		学内の理解	家庭の理解	保護者の応援
理解-不熱, 理解-熱心		.0490*	.5761	.0230*
理解-不熱, 非解-不熱		.3505	.1821	.8661
理解-不熱, 非解-熱心		.0445*	.4800	.1123
理解-熱心, 非解-不熱		.4330	.2953	.0191*
理解-熱心, 非解-熱心		.8156	.8131	.5094
非解-不熱, 非解-熱心		.3628	.4190	.0900

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

4) 部員との関係については、「解らない—研究不熱心」タイプは他のどのタイプより信頼感が低く、「解る—研究不熱心」タイプが、有意に高い。民主性、では「解らない」タイプが高く、配慮性では、タイプ間に有意な差は見られない。(図4-3、表4-3)

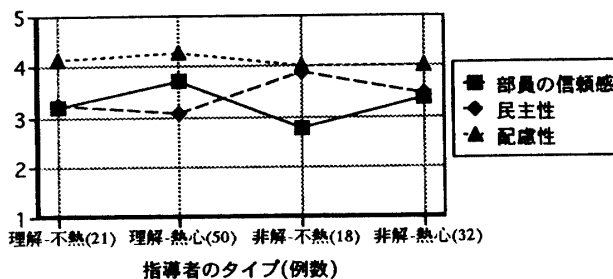


図4-3：指導者のタイプと部員の状況

表4-3 指導者の4つのタイプ間の有意差

FisherのPLSD		有意水準：5%		
		信頼感	民主性	配慮性
理解-不熱, 理解-熱心		.0007***	.3436	.3800
理解-不熱, 非解-不熱		.0193*	.0039**	.6670
理解-不熱, 非解-熱心		.2730	.2377	.6359
理解-熱心, 非解-不熱		<.0001***	<.0001***	.1835
理解-熱心, 非解-熱心		.0100*	.0121*	.1121
非解-不熱, 非解-熱心		.0004***	.0420*	.9858

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

5) 部員の状況については、チームの意欲、まとまりでは、「解る－研究熱心」タイプが「不熱心」な2タイプより高い。又「熱心」な2タイプは不真面目さはより低い。(図4-4、表4-4)

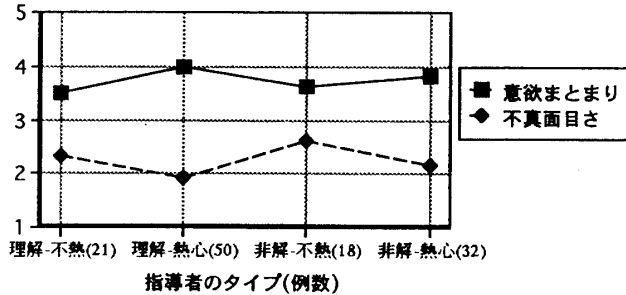


図4-4：指導者のタイプと指導の言葉

表4-4 指導者の4つのタイプ間の有意差

FisherのPLSD	有意水準：5%	
	意欲まとまり	不真面目さ
理解-不熱, 理解-熱心	.0032**	.0416*
理解-不熱, 非解-不熱	.6283	.1839
理解-不熱, 非解-熱心	.0813	.5150
理解-熱心, 非解-不熱	.0219*	.0006***
理解-熱心, 非解-熱心	.1947	.1222
非解-不熱, 非解-熱心	.2460	.0397*

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

6) 指導の言葉については、配慮の言葉では、「解る－研究熱心」タイプが「不熱心」な2タイプより有意に高い。指導の言葉では、「熱心」な2タイプが「解らない－研究不熱心」タイプより、有意に高い。(図4-5、表4-5)

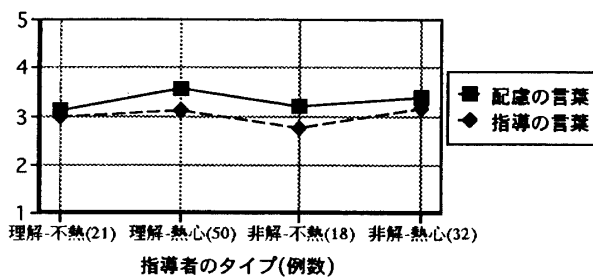


図4-5：指導者の4つのタイプ間の有意差

表4-5 指導者の4つのタイプ間の有意差

FisherのPLSD	有意水準：5%	
	配慮の言葉	指導の言葉
理解-不熱, 理解-熱心	.0095**	.3513
理解-不熱, 非解-不熱	.6629	.2470
理解-不熱, 非解-熱心	.1393	.2733
理解-熱心, 非解-不熱	.0495*	.0267*
理解-熱心, 非解-熱心	.2389	.7719
非解-不熱, 非解-熱心	.3480	.0222*

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

例数については「解る－研究熱心」(50)「解る－研究不熱心」(21)「解らない－研究熱心」(32)「解らない－研究不熱心」(18)という結果に現われるように、「解る」と「熱心」のタイプが85.1%を占めている。タイプ別の指導者においては、「解る－研究熱心」タイプが他のタイプより、意欲的に取り組み、子供たちも意欲的に真面目に取り組み、周りからの理解を得ている。「解る」の中にバスケットボール部の経験および指導歴が少ない場合でも、「研究熱心」であれば、充実感を感じ子供たちの信頼感、周りからの理解を得ているといえる。

まとめ

第一報、第二報に続き、中学校バスケットボール部の調査においても、指導者自身の運動部の経験が、部活動指導に対する意欲的な取り組み方に影響することが認められた。中学校の指導者においては、バスケットボールの経験者は68.6%、さらに98.3%が運動部活動の経験者であり、自己の運動部の経験が指導の現状に少なからず反映されている。又、59.5%が体育担当教員であり、運動部の経験も大学時代に渡って経験している指導者が68.6%であることから、専門性が高く運動部の活動に積極的な意義を見出している指導者が多いといえる。4つのタイプ別指導者についての結果からは、専門的な技術・知識があり研究熱心な場合は、最も指導者としての資質

が高いといえるが、専門的な技術・知識がなくても研究熱心な場合は、専門的な技術・知識があるが研究不熱心な指導者に劣らない指導状況にあるということがいえる。つまり、指導者の取り組む姿勢によって、子供たちとの信頼関係が成立し、子供たちの意欲的な活動を引き出し、指導者自信の充実感を産み出しているといえる。これは高等学校や小学校の調査結果と一致している。バスケットボールについては専門性の高い指導者が多いことが解ったが、新潟県の中学校における種目別の顧問（校内指導者）・外部指導者数（表5）に示したように、種目によって技術顧問者の実数にはかなりのバラツキがあり、現場の指導状況では技術指導に困難のあるケースが多いことが予測される。経験の少ない、指導に困難を感じている指導者にとっての指導技術、指導方法の研修の場を提供することが問題解決の一方法であることがいえる。

表5 顧問（校内指導者）・外部指導者数

種目	部数	顧問数		技術顧問者		外部指導者	
		実数	%	実数	%	実数	%
軟式野球	238	416	11.3	340	14.4	18	8.3
ソフトボール	30	52	1.4	36	1.5	1	0.5
陸上競技	188	373	10.1	253	10.7	7	3.2
体操競技	52	103	2.8	57	2.4	9	4.1
新体操	21	32	0.8	11	0.5	1	0.5
水泳競技	82	150	4.1	63	2.6	8	3.7
バスケットボール	179	430	11.7	270	11.4	14	6.4
バレーボール	238	463	12.6	332	14.1	21	9.7
サッカー	98	172	4.7	102	4.3	8	3.7
ソフトテニス	178	425	11.5	289	12.2	20	9.2
バドミントン	54	95	2.6	54	2.3	4	1.8
卓球	231	506	13.7	304	12.9	20	9.2
柔道	87	140	3.8	82	3.5	21	9.7
剣道	129	221	6.0	111	4.7	41	18.9
スキー	27	92	2.5	51	2.2	23	10.6
ホッケー	2	4	0.1	1	0.1	1	0.5
相撲	1	2	0.1	1	0.1	0	0
空手道	1	2	0.1	0	0	0	0
スポーツクラブ	1	2	0.1	1	0.1	0	0
合計	1837	3680	100.0	2358	100.0	217	100.0

新潟県教育庁保健体育課「運動部活動調査結果報告」1995年より

(資料1)

バスケットボール部顧問の先生・コーチへ〈質問用紙〉

新潟青陵女子短期大学 講師 高山千代

A 下の1～9について、お答え下さい。

1. 性別(男・女) 2. 年齢(才) 3. 未婚・既婚
4. 担当教科() 5. 担任(無・有 年組)
6. 部の性別(男子部・女子部)
7. 現在の部員数(男子 1年生 人、2年生 人、3年生 人)
(女子 1年生 人、2年生 人、3年生 人)
8. 今までに指導された種目と期間(今年も1年として)
種目 バスケットボール (年)
その他の種目
 ・ (年) ・ (年)
 ・ (年) ・ (年)
9. ご自身の中学・高校・大学時の部活動の経験
 中 学 校 種 目 ・ 年 間
 高 等 学 校 種 目 ・ 年 間
 大 学 種 目 ・ 年 間
10. 一週間にどれ位、部活動の指導をしますか(時間/日・ 回/7日)
 一週間にどれ位、練習をしますか (時間/日・ 回/7日)
 日曜日は月に何回位、練習をしますか (回/月)
 年に何回位、練習試合をしますか (回/年)

B 練習内容について、答えて下さい。

1. 普段よく実施している内容をあげてください。
(例 フットワーク・ドリブルシュート・三角パス・2：1速攻・5：5ゲーム等)
2. 特に大切に指導していることがありますか、あればあげてください。
3. 指導にでられない時、どのように対処していますか。
4. 試合前に特別実施することがありますか、あればあげてください。
5. レギュラー、非レギュラーの扱いの違いがあればあげてください。

C 部活動の目標について、下記の項目の中で重視しているものを3つ選び、重視している順に1～3の番号をいれて下さい。

- ・試合での勝利() ・バスケットの楽しさの経験() ・仲間づくり()
- ・精神力を養う() ・チーム内の役割分担や協力() ・体力の向上()
- ・社会性を養う() ・個々の技能の向上 ()

下記の質問について、あなたが部活動の指導に携わっている上で、日頃感じていることをお答え下さい。答え方は5～1の程度（5…あてはまる、4…ややあてはまる、3…どちらともいえない、2…あまりあてはまらない、1…あてはまらない）の中で、適当な数字1つの○をつけて下さい。

部活動指導の現状について

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 部活動の指導は楽しい | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 2. 希望して顧問になった | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 3. 顧問を辞めたいと思うことがある | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 4. 時間的に負担である | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 5. 部の指導に向いていないと思う | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 6. 指導する事に充実感を持っている | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 7. 部活動の指導に困難さを感じる | |

指導の技術的な部分について

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 8. 指導方法をもっと知りたい | |
| 9. どんな練習をすればよいか解らない | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 10. 審判方法がよく解らない | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 11. バスケットボールの本などをよく読む | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 12. 指導者講習会によく参加する | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 13. 他の学校の顧問とよく話をする | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 14. 常に練習内容に工夫している | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 15. 試合のビデオを撮影し指導に利用する | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |

指導の環境について

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 16. 他の先生方は協力的だ | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 17. 校長・教頭は協力的だ | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 18. 家庭の理解がある（ご自身の） | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 19. 家庭で不満を言われる | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 20. 保護者がよく応援にくる | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 21. 保護者の期待が大きい | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 22. 保護者は協力的だ | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |

あなたと部員との関係について

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 23. 子供たちは私の言うことを素直に聞く | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 24. 私は子供たちに信頼されている | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 25. 私は子供たちに好かれている | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 26. 私は子供たちに恐がられている | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 27. 私は子供たちによく相談を持ちかけられる | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 28. 私は子供たちの期待に応えていないと思う | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 29. 私は子供たちの意見をよく聞く | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 30. キャプテンは部員で相談して決める | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 31. 練習内容について部員の意見を聞く | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |
| 32. 私は全員が平等に練習できるようにしている | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 |

部員の状況について

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| 34. 子供たちには仲間意識を持っている | 5-4-3-2-1 |
| 35. 子供たちは楽しく練習している | 5-4-3-2-1 |
| 36. 子供たちはなかなか上達しない | 5-4-3-2-1 |
| 37. 子供たちは心身ともに逞しくなっている | 5-4-3-2-1 |
| 38. 子供たちにはやるが気がない | 5-4-3-2-1 |
| 39. 子供たちは練習を無断でよく休む | 5-4-3-2-1 |
| 40. 子供たちは競争意識を持っている | 5-4-3-2-1 |
| 41. 子供たちは互いに注意しあっている | 5-4-3-2-1 |
| 42. 子供たちは練習中ふざけていることが多い | 5-4-3-2-1 |
| 43. 子供たちだけでも普段通り練習できている | 5-4-3-2-1 |
| 44. レギュラー以外の子供たちも意欲的に参加している | 5-4-3-2-1 |
| 45. 子供たちは試合に勝ちたいと思っている | 5-4-3-2-1 |

指導中の言葉がけについて

- | | |
|-------------------|-----------|
| 46. ほめる言葉が多い | 5-4-3-2-1 |
| 47. 技術的な指導の言葉が多い | 5-4-3-2-1 |
| 48. しかる言葉が多い | 5-4-3-2-1 |
| 49. 叱咤激励の言葉が多い | 5-4-3-2-1 |
| 50. なじる言葉が多い | 5-4-3-2-1 |
| 51. 結果の善し悪しの言葉が多い | 5-4-3-2-1 |
| 52. 雰囲気盛り上げる言葉が多い | 5-4-3-2-1 |

部活動をやめていく子供たちについて、退部の主な理由を多い順にあげて下さい。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

ご協力有難うございました。

尚、何かご意見がございましたら、お聞かせ下さい

<引用・参考文献>

- 1) 高山千代、「運動部活動指導者の現状と問題点」新潟青陵女子短期大学研究報告第27号、pp93-105、1997.
- 2) 高山千代、「運動部活動指導者の現状と問題点」新潟青陵女子短期大学研究報告第28号、pp107-117、1997.
- 3) 新潟県バスケットボール協会編、「明日への翔魂」新潟県バスケットボール協会、1993.
- 4) 新潟県バスケットボール協会編「新潟県バスケットボール協会年報（第25号）」新潟県バスケットボール協会、1997.
- 5) 桑野 豊、他「現代社会とスポーツ」不昧堂、1984.
- 6) 体育社会学研究会編「体育とスポーツ集団の社会学」道和書院、pp135-158、1974.
- 7) 新潟県教育庁保健体育課、「運動部活動調査結果報告書」新潟県教育庁保健体育課、1995
- 8) 体育社会学研究会編「体育・スポーツ指導者の現状と課題」道和書院、1974.
- 9) 体育・スポーツ社会学研究会編「体育・スポーツ社会学研究2」道和書院、1983.
- 10) 佐伯聰夫、他「現代社会スポーツの社会学」不昧堂、1984.
- 11) 体育・スポーツ社会学研究会編「子供のスポーツを考える」道和書院、1987.
- 12) 城丸 章夫、水内 宏編「スポーツ部活はいま」青木書店、1991.